

駒の子短歌

No.37 令和3年10月18日(月) 佐久市立望月小学校

10月17日(日)、天来祭りが行われ、出席させていただきました。天気がよければ天来記念公園で行われる予定でしたが、雨のため片倉公民館で行われました。

「天来とその弟子たち」という演題で天来先生のお孫さんである比田井和子さん(天来書院会長)が講演をしてください、とても勉強になるとともに、地域の方々と交流を深めるよい機会になりました。

天来祭りのあいさつから (一部抜粋)

天来先生と小学校の関りは非常に深く、校内には幾つもの天来先生の書が飾られています。

応接室には天来先生が昭和11年に満州で書かれ、「これはよくできた。私の母校に贈りたい。持って帰るように。」と言って、大森萬里先生に渡されたという「協和 正直 奉仕 明朗」の書があります。

遠く離れた地からも、天来先生が母校の子どもたちの成長を願うエピソードであります。

私が望月小学校に赴任した昨年の、およそ3か月間の休校が明けた6月、3年生が天来記念公園の見学に行きました。見学では、ここにいらっしゃる皆様にもたいへんお世話になりました。改めまして、感謝申し上げます。

その感動から、さっそく「天来先生の書を見たい」と子どもたちが校長室訪れ、天来先生の書を鑑賞している中で、せっかくだからまねて書いてみよう、ということになりました。

それ以来、応接室に筆ペンを20本ほど用意すると、休み時間のたびに、筆で絵や言葉をかく、創作活動が続いています。

また、習字の学習では、小林和史様、常田洋子様にご指導をいただいています。おかげさまで、子どもたちは書に親しみ、習字の時間を楽しみにしています。

私も天来先生生誕の地の小学校長として、何とか子どもたちが書に親しんでほしいと願い、短歌を作って掲示しております。

本日もこの会に寄せて一つ創りましたので、短歌を紹介させていただきます。

書の父と 敬し尊ぶ 先人に 子らが学ぶは 人の生き方

この短歌にこめた思いを子どもたちにも伝え、実践していきたいと思えます。

望月小学校は多様な関わりから学ぶことを大切にしています。先日もバイオリニストの先輩を招いて、コンサートを行いました。また1年生はヤギを飼い始めています。

こういった関わりから学ぶことは、命の大切さや人のあたたかさ、そして人としての生き方であると思えます。天来先生もそう願っていると思えます。

皆様方におかれましては、これからも子どもたちのために引き続き、ご支援をお願いいたします。

以上であいさつとさせていただきます。本日は本当におめでとうございます。

